



(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2020年
12月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

中2で起業、高1で母校を買収した現役女子大生

～全ては「日本の教育のあり方」を変えるために～

「日本の教育は『テストをどう乗り切るか』という部分に目的が置かれている。教育の最大の目的とは、『自分の人生を自分で決めて、切り拓いていけるようになってもらう』ことなのです」



こう話すのは現役女子大生にして、教育ビジネスを手掛ける起業家の仁禮彩香（にれいあやか）さん。彼女は中学2年で起業し、高校1年生の時にはかつて自身が通った母校を買収。23歳になった現在は慶應義塾大学に在籍しつつ、教育事業を行う会社を経営しています。

経済誌『フォーブス』の日本版で『世界を変える30歳未満の30人』に、DIAMONDハーバード・ビジネス・レビューでも『未来を作るU-40経営者20人』に選ばれた経歴を持つ、若くして国内外から注目されている凄腕経営者なのです。

彼女はどんな経験をし、どんな思いを持って中学での起業・母校の買収など、普通では考えられない行動を起こしてきたのでしょうか。

そこには、日本の教育のあり方を変えるために・・・という強い思いがあったのです。

小学 1 年生で抱いた「教育のあり方」への疑問

1997 年生まれの仁禮さんは、サラリーマンの父と専業主婦の母という一般的な家庭で育ち、湘南インターナショナルスクール（S I S）という幼稚園に入園します。

その幼稚園は一般的な幼稚園とは違い、「なぜそう思ったのか」「なぜそうしたいのか」を自主的に子どもたちに考えるよう促す教育方針でした。そうすることで、子どもたちが話し合い、自分たちで問題を解決できるようになるのです。そして、一人一人を尊重することが何より大切と教わって育ちました。

その後公立の小学校に進学した彼女は、さまざまな違和感を感じるようになります。

「私が通っていた幼稚園とは反対に、正解がすべて決まっていて、先生が言ったことが正しい。先生の指示通りに動いた子が『偉い』と褒められるんです。

例えば、道徳の授業でも教科書に載った 1 つの答えが正解で、自分の頭でしっかり考えることができない。それは驚きでしたし、正直違和感が募りました。」

小学 1 年生にして教育のあり方に疑問を持ち、自身が学んでいた SIS の園長に相談した結果、なんと園長先生はもともと幼稚園しかなかった SIS に小学校を作ってくれたのです。仁禮さんは 2 年生からこの学校に編入しました。

しかし、今度は自ら当時の違和感の本質を見極めたいと、中学受験をして再度日本の学校に入り直すことにします。

中学校では日本の教育の改善策を探るとともに、新しい教育モデルを提案しようと中学 2 年生の時、起業を決意します。

「社会の仕組みをもっと早く知りたいと思ったことも、起業の動機の 1 つでした。起業の資金については、たまたま通っていた合気道の先生が投資家の方で、起業プランを説明し、出資してもらいました。両親は『なぜ起業したいのか、その理由がはっきりしているなら応援する』と言ってくれました。恵まれていますよね（笑）」

そして高1の時には母校であるS I Sを買収し、経営に携わるようになったのです。
(この買収はあくまで健全経営に介入するという意味合いの友好的な買収でした)

全ては「自己を知ること」から

仁禮さんはその後、2016年に2社目となる会社を設立。現在は大学を一旦休学し、小学5年生から高校3年生までを対象に起業家としての体験を通して、社会や自分について理解するという、「自己認識」「社会接続」「才能発揮」の3つを柱としたオンライン起業家体験プログラムを提供するという事業に注力しています。

仁禮さんが考える、日本の教育を変えるために必要なものは何なのでしょう？

「実際のビジネスでは、常に答えのない問題ばかりに直面し、本当にこれでいいのかと苦しむこともあります。この事業を通して、日本の教育を変えていくきっかけを提供したいですし、子どもたちには、自分の理想を語れる人になってほしいと思っています。学校という限られた場所だけではなく、社会も勉強の場として使ってほしい、その中で自己を探っていく。社会を認識するためのいろんな視点を持ってほしいのです。

もし中学、高校で自分の特徴を知ることができれば、その先の進路を選ぶときに、納得できる選択肢を選ぶことができるはずです。ピアノを習ったり水泳を習ったりするのと同じように、起業家経験を通して、実際にさまざまな課題にぶつかったり何かを成し遂げたりする過程で自己を知り、社会と接続する方法を学んでほしい。

私たちの一番の目的は起業家を輩出することではありません。あくまで自らの人生を切り拓く力を身に付けてほしい。そんな願いを持って今事業を行っているのです。

自分自身、全然完璧ではないですし、人に完璧を求めてもしょうがないと思います。

安心してチャレンジできて、盛大に失敗できて、学び合い助け合える仲間が集う場所が必要だと考えています。」

そう語った彼女はまだ23歳。今後も様々な挑戦を続けられることと思います。

愛する我が子には、将来どのような人になって欲しいですか？

先月号のMAC NEWSで、日本の子供たちは「自己肯定感が先進国の中でトップレベルに低い」という記事を書きました。自己肯定感とは、「私はやればできる」という、いわば自分を信じてあげる気持ちのことです。

今更ですが、MACは『**自ら考え、自ら行動できる人を育てる**』という理念のもと日々指導をしています。

MACは、そのような人を育てるためには自己肯定感のある子に育ててあげる必要があると思っています。なぜなら、自分を信じてあげる気持ちがなければ物事にじっくり取り組めないですし、じっくり取り組めなければ結果が出る前に「やっぱ無理」と何事も途中で諦めてしまうからです。

今回はこの「自己肯定感」について少し詳しく書いてみたいと思います。

自己肯定感には「**社会的自己肯定感**」と「**基本的自己肯定感**」の二つがあります。

社会的自己肯定感に関しては、例えば「〇〇君より走りが早い」「〇〇さんより成績が良い」「テストの結果が良かった」など他者との比較で高まるもので、どちらかというとう越感に近いものです。

社会的自己肯定感の場合、勝っていると思っていた相手に負けたり、成績が落ちたり、結果が悪かったりすると一気に崩れてしまう、言わばもろい肯定感なのです。（結果が悪いことに対して他人に叱られるとなおさら崩れ去ってしまいます）

それに対し**基本的自己肯定感**は「私は私でいい」「自分はやったらできる」と、自分自身の内側から湧き出てくるものです。

こうやって並べると言うまでもありませんが、**基本的自己肯定感**の方を高めてあげないといけません。では、どのようにすれば子供の**基本的自己肯定感**を高めてあげることができるのでしょうか？我が子のためにできる声掛けのポイントは五つです。

- ① 「他者」とではなく「過去の自分（我が子）」と比べる
- ② 「結果」ではなく「過程」を褒める
- ③ 「失敗」しても「挑戦したこと」を褒める
- ④ 「親・家庭」が、子供が安心して戻ってこられる「心の居場所」になる
- ⑤ 無条件で受容する（無条件の愛情を注ぐ）

（著書：『子どもの能力を決める0歳から9歳までの育て方』（株）KADOKAWA より抜粋）

日頃の声掛け次第で**社会的自己肯定感**が高まるか、**基本的自己肯定感**が高まるかが分かれます。日頃から上記ポイントに注意し、我が子の**基本的自己肯定感**を高められるような声掛けを心がけてみて下さい。

自分と向き合うことが、全てのスタート

先述の通り、**基本的自己肯定感**は他人の評価ではなく、自分の中から湧き出てくるものだと書きました。なので周りの大人の声掛けも大切ですが、自分に自信を持たせてあげる経験をさせる 必要があります。

そのためには仁禮さんも仰っていましたが、まずは「**自己を知ること**」が全てのスタートとなります。

自分と向き合い、自分を客観的に見て、自分を理解し、そこからどうしていけば今の自分より少し成長できるかを自分で考える。

これはものすごく難しい作業ですし、すぐにうまくいきませんし、指導する側も忍耐のいる作業ですが、この時間をいかに多く持たせるかが一生役立つ力に繋がります。

親としたら我が子のすぐに結果が出ない姿がもどかしく、失敗しない方法・効率の良い方法をすぐに教えがちですし、勉強面でもすぐに結果や成果を求めてしまいます。

ただそれを繰り返せば、自分で考えずすぐ人に答えを教えてもらおうとするようになりますし、うまくいかなければその答えを教えてくれた人のせいにするようになります。

（これについては、先月号のMAC NEWSでも書きました）

安心してチャレンジし、盛大に失敗できる経験が後の財産に

「失敗ばかりしていたら自信の無い子に育ちませんか？」

と質問されることがあります。確かに失敗のたびに叱りつけ、その後何も行動に移さないのであれば、恐らく自信のない子に育つと思います。

しかし、私は「失敗のないところに成長などない」と考えています。

日々過ごす中で失敗や結果が悪いことは多々あります。(むしろほとんどそうです) 大切なのはその失敗の後に「次は失敗しないようにどうしていこう」と自分自身で考えることです。

例えば、親や先生が指示をしてうまくいけば言われた通りにしたのでうまくいったというだけで、基本的自己肯定感には繋がりません。

しかし自分で考えて、自分自身で行動に移してうまくいったら「私は私でいい」「自分はやったらできる」という、自分を信じる気持ちが内から湧いてきます。

MACでは勉強を通して、この経験をさせてあげたいのです。

「じゃあMACの先生は生徒に任せて放ったらかし？」と言われそうですが、もちろんそうではなくて、生徒自身が自分で考えて行動に移せるような声掛けやアドバイスをしたり、考えが間違っている場合は修正するよう声掛けをしています。

この失敗を失敗で終わらさず、次につなげていくサイクルが基本的自己肯定感を高め、何事にもチャレンジできる人間性を作っていくのです。そんな人間性でなければ、いくら成績優秀でも自ら考え、自ら行動に移し、自らの人生を切り拓くことはできません。

子供たちにとって、MACは安心してチャレンジできて、盛大に失敗できて、学び合い助け合える仲間が集う場所でありたいと考え運営しています。これからも失敗し、成長を続ける我が子の応援、よろしく願いいたします。

自分と、よく理解していますか？

突然ですが、あなたはあなた自身のこと、よく理解できていますか？
「自分のことをよく理解すること」が今後の人生を大きく左右しますよ。


「自分と向き合うこと」が自分を成長させます

あなたは自分のことをよく理解しているでしょうか？毎日忙しく過ごすなかで、自分で考えることをせず、ただ言われたことを言われた通りにしていないでしょうか？

皆さんが日々勉強しているのは、テストで良い点数を取るためではなく、『**自分の人生を自分で決め、自分の力で切り拓いていけるようになるため**』です。その訓練・材料集めのために、日々勉強に取り組んでいるのです。

様々な選択肢の中から自分のしたいことやすべきことを自分で考えて、自分で行動に移していくためには「**自分はどんな人間か**」ということをよく理解しなければなりません。なので自分で考えることをせず、ただ言われたことをしているだけはいけないのです。

社会に出たら用意された「正解」はありません。そんな正解のない日々後悔しない答えを出せるように、今のうちから自分と向き合い、自分はどんな人間なのか、よくよく観察してみてくださいね。



きょういく さいだい もくてき **「教育の最大の目的は『自分の人生を自分で決めて、切り拓いていけるようになってもらう』ことなのです」**

いじん めいげん
偉人の名言

にれい あやか ちゅうがく ねんせい しゃちょう げんえきじょしだいせい
仁禮 彩香 ～中学2年生で社長になった現役女子大生～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。